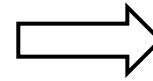


1 学校教育目標

教育目標・・・高い知性と豊かな情操を有し、自主・創造の力と敬愛の心にあふれ、勤労と責任を重んずる、心身共に健康な実践力のある人間の育成に努める。

中期目標（小郡中学校のミッション）

- 一人ひとりの生徒の「生きる力」（特に学力）の育成を保障する教育の推進
- 信頼される質の高い学校評価にもとづく一層開かれた学校づくりの推進
- コミュニティ・スクールを核とした地域に貢献できる学校づくりの推進
- 小学校と連携した「世界にはばたく小郡っ子育成プラン」の確実な推進

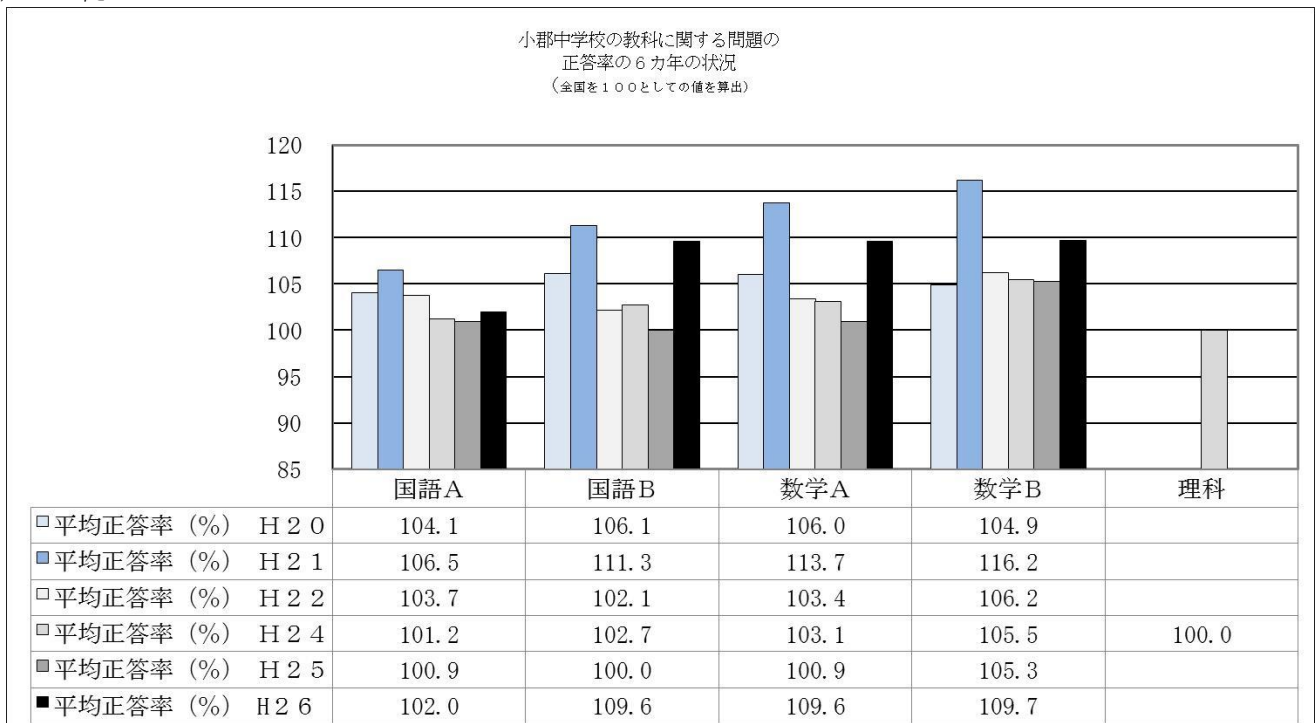


一層信頼される学校
（小郡教育のブランド化）

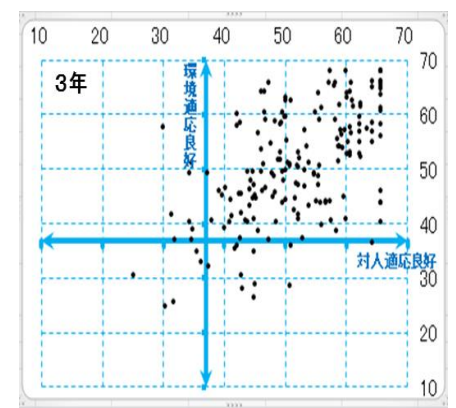
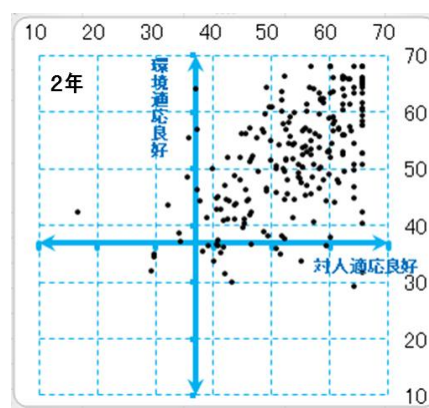
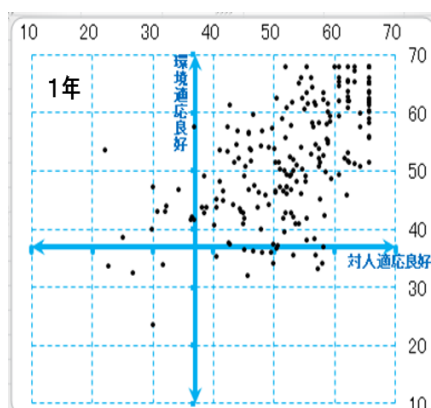
P-TRUST2013 関係的信頼係数 25.5→28

2 現状分析（本校の現状と課題）

（1）生徒



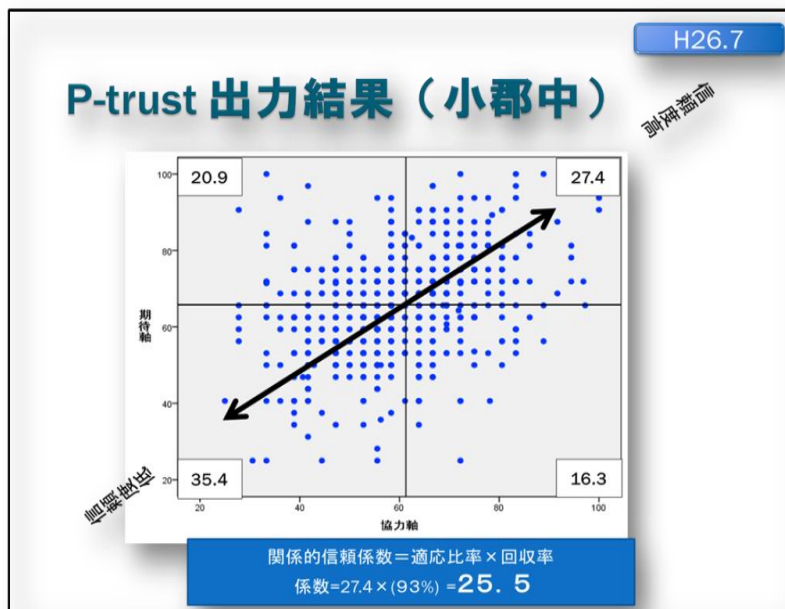
過去7箇年（平成23年度は除く）の全国学力・学習調査については、いずれの教科についても、これまで全国平均を常に上回ってきており、本校において生徒の確実な学力定着がなされてきていることが伺える。特に昨年度は、平成21年度に次ぐ好成績を修めており、国語B(活用)、数学A(知識)、数学B(活用)において優れた成果をおさめてきているといえる。本校教育が学力面でも着実に充実してきている状況が見取れ、子どもたちの毎日の真摯な取組が、大きな成果として実を結んできているといえる。



分類 適応感 の状態	側面①	側面②	側面③	側面④	側面⑤	側面⑥	側面⑦	側面①～	側面④～	側面⑦	側面①～	
	Q1.8.15.23 【生活満 足】	Q3.10.17.2 4 【教師支 援】	Q5.12.19 【家庭支 援】	Q2.9.16.22 【友人関 係】	Q6.13.20 【社交 性】	Q4.11.18.2 5 【安心 感】	Q7.14.21 【学習】	③ 【環境適 応感】	⑥ 【対人適 応感】	【学習適 応感】	⑦ 【総合適 応感】	
適 応	基準値	92.2%	92.2%	93.1%	90.8%	93.3%	92.0%	92.6%	89.7%	88.7%	92.6%	89.9%
	1年	93.1%	95.6%	89.7%	93.6%	95.6%	92.6%	91.2%	92.2%	92.1%	91.2%	94.1%
	2年	92.0%	95.1%	96.9%	96.9%	98.7%	95.5%	87.9%	92.0%	95.5%	87.9%	96.4%
	3年	93.5%	94.1%	94.1%	95.7%	95.7%	93.5%	94.1%	91.4%	93.0%	94.1%	91.4%
	全校	92.8%	94.9%	93.6%	95.3%	96.7%	94.0%	90.9%	91.8%	93.5%	90.9%	94.0%
要確認 (32以 下)	基準値	3.0%	2.8%	2.0%	2.2%	2.3%	2.3%	3.0%	4.4%	4.9%	3.0%	4.2%
	1年	1.5%	2.9%	2.5%	0.5%	1.5%	3.4%	5.4%	0.5%	4.9%	5.4%	2.5%
	2年	1.8%	0.9%	1.3%	0.4%	0.9%	1.3%	5.4%	1.3%	1.8%	5.4%	1.3%
	3年	2.7%	4.3%	2.2%	1.6%	2.2%	1.6%	3.2%	4.3%	3.2%	3.2%	3.2%
	全校	2.0%	2.6%	2.0%	0.8%	1.5%	2.1%	4.7%	2.0%	3.3%	4.7%	2.3%

また、生徒の生活適応状況について、11月に実施した生活アンケート（Fit）の結果を示したものが上図であり、対人と環境を合わせた総合適応感では、「適応」の範囲内に94.0%の生徒が入っており、基準値の89.9%と比較して高い数値を示していること、「要確認」の範囲内の2.3%も基準値の4.2%を下回る数値を示していることから、生徒の集団への所属感を高めるための様々な方策やきめ細かな教育相談対応が効果に繋がってきていると言える。「学習」については「適応」が基準値を下回り、「要確認」も基準値より多いことから、授業の中での生徒の居場所づくりが今後の課題である。

(2) 保護者



愛媛大学と共同で実施した保護者アンケート（P-TRUST2013）の分析結果を示したものが左図である。

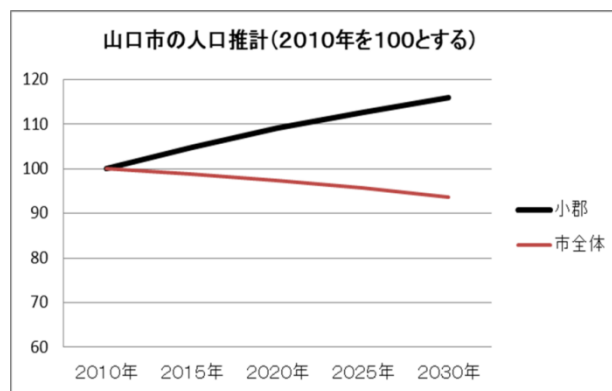
結果として、保護者の本校に対する信頼度を図る指標といえる関係的信頼係数は25.5であった。概ね信頼を得ていると判断できる数値が28であることから、本校においては、保護者の皆様からさらに信頼される学校づくりをめざす必要があると言える。本校教育への保護者の期待度と協力度の2つの側面から詳細に見ると、(適応) 27.4、(葛藤型) 16.3、(依存) 20.9、(回避) 35.4であり、今後は信頼度高(適応)の数値が上がるよう、教育活動の工夫・改善等に努めていく必要がある。

(3) 地域

山口市南部に位置する小郡地域は、新山口駅等を擁する山口県の交通の要所であり、人口約2万5千人の市内で最も住民の多い、マンモス地域である。市全体では、平成22年度から人口減少に転じているが、推計によると、小郡地域だけは市内でも唯一、今後も人口増加が見込まれており(右図)、さらなる発展が大きく期待されている活力ある地域である。

地域には3小学校があり、ほとんどの卒業生が本校に入学してくる。豊富なマンパワーに支えられ、教育に造詣の深い人材も多く、地域が持つ教育力のポテンシャルは極めて高い。地域

づくり計画では、「交通の利便性を生かし、山口市南部の核となるまち」を将来像として描き、事業テーマとして「地域のブランド化」を前面に押し出して、スケールの大きな地域活動が活発に展開されてきている。



3 自己評価・学校関係者評価

◆自己評価 【評価基準 4：十分達成できている 3：おおむね達成できている 2：やや不十分である 1：不十分である】

◆学校関係者評価 【評価基準 A：優れている B：良い C：おおむね良い D：要改善】

自己評価				学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）評価	評価	達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導	『小郡中学校学力向上プラン』による、「学び」の喜びを感じ、主体的に学ぶ生徒の育成 1. 基礎的内容の反復学習の機会の設定 2. 家庭学習の習慣の定着・質の向上 3. 「学習力」の向上	1-1.学力の実態把握 (1)全国学テ、やまぐち学力支援ツール対象問題の実施 105P～…4 95P～…3 85P～…2 ～85P …1	<p>3 (3.36)</p> <p>【4】</p> <p>【4】</p> <p>【3】</p> <p>【4】</p> <p>【4】</p> <p>【3】</p> <p>【3】</p> <p>【3】</p> <p>【3】</p> <p>【4】</p>	資料 1,2 参照 * 県平均との比較 105P以上を目標としている。 ◇学力分析支援ツール結果 ・1年 106.8P(4) 2年 97.9P(3) 3年 111.2P(4) 資料 3,4 参照 ◇4回の教科部会実施(7/6、8/18、11/9、1/11) ・進捗状況確認、分析、課題に対する取組の検討 ◇検証改善の活用について 72% 資料 5,6 参照 * アンケート結果 80%以上を目標としている。 ◇有効 <u>92%</u> ◇有効 <u>68%</u> 利用状況 30% 利用希望 52% ◇有効 <u>77%</u> 87% ◇有効 <u>96%</u> 84% ◇有効 <u>85%</u> 74% ◇有効 <u>84%</u> 73% ◇家庭学習の形態…71% (宿題、自学約 15%) ◇提出状況…学年を追って下降、個人差の拡大 ◇総務・学習委員会 ・「学習の約束」習慣化のための自治的活動 ◇学習委員会 ・家庭学習ノート提出確認、提出状況調査 ◇図書委員会 ・学級文庫設置、貸出冊数調査 「オールおごおり」で取り組む学力向上プロジェクト 参照 ◇小郡地区小中連携協議会(6/7、1/24) ◇小中合同研修会(8/24)実施 ◇授業力向上実践研修会(11/16)実施 ◇中学校見学会、進学説明会、仮入学、小中連絡会	○学力の定着・向上は、学校の教育環境が適切に維持されていることが主要因であり、現状維持を強く望む。 ○本校の学力状況が数値データから良くなる。特に3年生の社会科の状況から、学力向上に向けた学校の取組が伺える。 ○効果的な朝学習や家庭学習ノート等の取組により、学習習慣の定着が図られていると思われる。 ○学力の実態から言語に関する知識や実験・観察の技能の高さなどが伺えるが、例年同様、文章表現や読解力等に課題が見られ、引き続き解決に向けた取組が必要である。 ○プランに係るアンケートで、教員と生徒とのギャップが大きい項目が見られるが、その要因を調べていくと良い。 ○低学力の生徒について、個々に対策を考え、本人・保護者と協議しながら対応していくと良い。 ○質問教室は有効と思われるが、テスト期間中のみの実施であり、生徒がタイムリーに聞けるよう、曜日や日時を決めて実施するとより有意義なものになると思われる。 ○教員の指導力の高さがしっかりと伺えた。学力面に関して、2年生が特に気になるが、先生方の効果的な指導方法により今後の成績の伸びに期待していく。	B
		(2)検証、改善 80%～…4 70%～…3 60%～…2 ～60% …1		【4】		
		1-2.授業形態の工夫 (1)帯活動の導入（5分間の復習） (2)「学びの週間（質問教室等）」の開設		【3】		
		1-3.小郡タイムの計画的活用 (1)朝読書 (2)朝学の実施 (自作、やまぐちっこ学習プリント・練習問題の活用)		【4】 【2】		
		(3)聞き取り・読み取りマスターの実施		【4】 【4】		
		2. 家庭学習の習慣化と内容の充実 (1)家庭学習ノートの手引き作成 (2)段階的な家庭学習指導（習慣づけ・質・量の向上）		【3】 【3】 【3】		
		3. 学習規律の徹底、学習環境づくり (1)「学習の約束」の浸透・定着 (2)「学習の約束」の具体的課題の重点化 (3)生徒会活動との連携		【3】 【3】 【3】		
		(4)小中連携協議会による小郡教育ブランド化		【4】		

13名中 A:6 B:5
C:2 D:0

<p>『小郡中学校授業改善プラン』による、生徒一人ひとりが、達成感をもてる授業の創造</p> <p>① 教科を意識した「教えて考えさせる授業」の理念の定着</p> <p>② 「授業改善の4視点」に基づいた授業の創造(視点4の重点化)</p> <p>③ 授業研究への意識の向上と、協力体制の構築</p> <p>④ 授業研究の協議の充実</p> <p>⑤ 連携を意識した研修の充実</p>	<p>① 「教えて考えさせる授業」の理念に基づいた授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手引きの周知徹底、共通理解 ・教科部会の実施 <p>② 「授業改善の4視点」を基にした授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価の充実(毎時間実施) ・ICTの活用 <p>③ 各教科1名による研究授業と、全教員による授業公開の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一授業(2学期末までに実施) <p>④ 研究協議の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりに焦点を当てた協議の工夫 <p>⑤ 小中連携やユニット型研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学力向上部会の実施 	<p style="text-align: center;">4</p> <p>【4】</p> <p>【4】</p> <p>【4】</p> <p>【4】</p> <p>【4】</p> <p>【3】</p>	<p>① いじめアンケートの授業に関する項目より、「授業がよく分かる」「授業に主体的に取り組んでいる」の両項目とも昨年よりパーセントが上がっている。授業が分かることで自信をもって臨んでおり、「教えて考えさせる授業」の理念が定着しつつあるのではないかと考える。</p> <p>② 授業改善の4視点については、生徒による授業評価から分析すると、重点を置いている「視点4」を含め、どの視点も3.5周辺であり、全体としても昨年度の3.47から3.55にあがっており、昨年度と比較して伸びている傾向が伺える。項目別でみると特に「授業評価」の伸びが大きく、生徒の達成感が価値付けへとつながっているのではないかとと思われる。</p> <p>③ 授業研究会や公開授業を行えば授業改善につながり学力が向上する、という仮説のもと6回の授業研究会や一人一授業公開を実施した。全国学力状況調査ややまぐち学力支援ツールより、多くの教科で目標の105以上という好成績を得ており、日ごろの研修の成果と考える。(学力向上参照)</p> <p>④ 授業研究会の協議会が充実すれば授業にも還元され、生徒の授業への適応が上がると判断した結果、Fit(生活アンケート)の学習に関する項目において昨年より学習適応が基準値の92.6%を越え、92.0%(H27.11月)から95.2%(H28.5月)、94.9%(H28.11月)と推移している。基準値を大幅に越えていることから、生徒が自信をもって授業に臨んでおり、研修の取組の成果であると推察する。</p> <p>⑤ 小中連携や地域との連携は数値では計れないが、ユニット型研修の実施や、小中推進プランの活用など、計画的に意欲的に実施している。また、授業力向上実践研修会では、本校の取組を市内で発表することができた。小中で進めている「生徒の価値付け」を中学校ではどのように充実させていくかが課題である。</p>	<p>○「教えて考えさせる授業」が軌道に乗っており、年6回の授業研究会が成果につながっていると思う。</p> <p>○授業の雰囲気や乱すような生徒はいないと聞き、安心している。改善の4視点をチェックしながら、これからも研修を進めて欲しい。</p> <p>○授業改善の4視点とも授業評価の結果が昨年度より伸びており、生徒の自信につながっていると思う。授業研究も準備が大変と思うが、学習適応も基準値を超えており、先生方の努力の成果だと思われる。</p> <p>○先生方の授業に対する工夫が授業参観時に伺えた。電子黒板の巧みな使用などにより、分かり易く一方でない授業が展開されている。</p> <p>○授業研究会や公開授業の実施が、生徒の学習意欲の向上につながっていると思われる。</p> <p>○文科省が提示する新学習指導要領案のなか、教員に対して授業改善という名の下に一律の締め付け、無理を強いることなどが懸念される。</p> <p>○アンケート結果から数値は上がっているものの、授業での理解度がやや低いことが気になる。生徒自身が不安を感じることが多いと自信が揺らぐことから、生徒がより納得できるような指導が望まれる。</p> <p>○生徒が授業に主体的に取り組み、授業内容がよくわかるなど、生徒の意欲を高揚するための授業改善プランに基づく取組は全体的に向上しており、今後も生徒がより一層達成感を感じる授業の創造をお願いしたいと思う。</p>
--	---	---	--	--

13名中 A: 6 B: 7
 C: 0 D: 0

生徒指導	<p>『小郡中学校居場所づくりプラン』による、安心・安全な居場所づくりに向けた指導・支援の充実</p> <p>生徒一人一人の適応状況（対人、環境、学習等）を把握し、様々な情報に基づき生徒に接し、生徒指導係、特別支援係、教育相談係が連携して対応することで適応感をあげる。</p> <p>①所属感、有用感の醸（教科、学活・行事等、（家庭）</p> <p>②的確な生徒理解に基づく指導（実態把握、相談体制の充実）</p> <p>③規範意識を基盤としたより良い人間関係の構築（生徒間、生徒と教職員）</p>	<p>①-1 授業改善プラン、学力向上プランに則り、授業に意欲的に取り組み、協同して学力を伸ばす。</p> <p>①-2 クラス、学年、行事（社会とのつながりプランに則って実施する。）等で一人一役のある場面を設定し、責任を持ってやり遂げさせる。</p> <p>②-1 各種調査の実施で生徒理解を深めるとともに、早期発見と早期対応に努める。便り・通信の発行、面談等により、助言・支援を行う。</p> <p>②-2 相談体制を充実し、定期的活動だけでなく、不定期の教育相談を増やす。</p> <p>②-3 自分自身に悩んだり、人間関係に戸惑いを感じたりしている生徒を支援する。（教育相談係を中心として）</p> <p>③-1 厳守（管理）と受容のバランスがとれた対応に努め、生徒と先生の関係を良好に保つ。</p> <p>③-2 観察、調査によりいじめを早期発見、改善し、生徒間の関係を良好に保つ。</p> <p>③-3 社会とのつながりプランの推進により、集団の中で自分の個性を發揮しながら生徒同士の関係を良好に保つ力を獲得させる。</p> <p>①～③ 対人関係やコミュニケーション等に悩む生徒に早期に寄り添い、個の特性に応じて的確な支援をする。（特別支援教育係を中心として）</p>	<p>4</p> <p>【4】</p> <p>【4】</p> <p>【4】</p> <p>【4】</p> <p>【4】</p> <p>【4】</p> <p>【4】</p>	<p>・評価は、5月と11月に実施したFit生活アンケートの4つ質問（25問中）で、よくあてはまる、あてはまると回答した生徒の割合と総合適応感の数値、7月と12月に実施したいじめアンケート1で、被害にあったと回答した生徒の割合のいずれも年平均値を活用した。その結果、昨年度作成した基準表に照らし合わせて判断すると、いずれの項目評価も4になり、総合評価も4となった。</p> <p>・重点目標①については「学校生活に満足している生徒」という質問の値が82.3%、83.7%、86.2%で推移し、3年間で確実にアップしてきた。今後も学力・授業、行事、不適応生徒の対応改善で満足感をあげていかなければならない。</p> <p>・②については、「私のことを分かってくれる先生がいる」という質問の値が65.2%、68.8%、74.2%で推移し、3年間で確実にアップしてきた。日頃の生徒への接し方の質をあげ、更なる生徒理解を図り、指導に生かさなければならぬ。</p> <p>・③については「先生は生徒に平等に接してくれている」という項目の値が75.8%、79.8%、85.1%で、「困ったときに助けてくれる先生がいる」という項目の値が80.0%、81.2%、84.8%で推移し、いずれも3年間で確実にアップしてきた。また、生徒間の関係については、いじめアンケート1の結果から、被害経験率は25.7%、22.5%、19.9%と推移し、減少してきている。職員研修等で生徒への関わり方、生徒同士の人間関係作りの方法を研修し、よりよい人間関係を構築したいと考えている。</p> <p>・Fitの総合適応感では、「適応」の値は93.6%、94.9%、94.9%で推移し、基準値の89.9%と比べるとかなり高い水準を保っている。</p> <p>・今後も生徒一人一人への指導とクラス、学年、学校という大きな集団への指導を平行して行いながら安心・安全な居場所づくりに向けた指導・支援の充実をはかっていこうと考えている。</p>	<p>○Fit アンケートで、「学校生活に満足している」・「自分のことをわかってくれる先生がいる」・「先生は生徒に平等に接している」・「困ったときに助けてくれる先生がいる」の各項目で、年々数値が確実に向上しており、これは先生方のお陰である。そういうことから、本プランの自己評価が昨年度3から今年度4という向上については、大いに頷ける。</p> <p>○いじめアンケートで、被害経験率が19.9%と減少していることは好ましいことであり、次年度以降、さらに数値が減少していくことが望まれる。</p> <p>とともに、19.9%の生徒に対するフォローをしっかりとお願いしたい。</p> <p>○様々な「いじめ」がもとで、「自殺」という問題が後を絶たない世の中である。やはり学校の中でも、ここの部分の強度を上げて欲しい。何かが起こった後から、「対応できていなかった」・「事実を認識していなかった」と言い訳は通らないので、今後も相談できる仲間や支援をしてくれる教師を増やすよう指導をお願いしたい。</p> <p>○生徒にとって居心地の良い学校になっていると思う。中学生時は感情の起伏が著しい年代ゆえに、人間関係やコミュニケーション力を培う指導が大切であり、指導を通して自尊心や寛容な心を育てて欲しい。</p> <p>○自分の子どもが小郡中で本当に良かったと日々言っている。親としても、多感な時期に先生方のお陰で成長させていただいたことに深く感謝している。また、いじめの実態を把握されていることでより信頼感が増した。</p>	<p>B</p>
	<p>13名中 A: 5 B: 7 C: 1 D: 0</p>					

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">キャリア教育</p>	<p>『小郡中学校社会とのつながりづくりプラン』による、将来と今をつなぐキャリア教育の推進</p> <p>I. キャリア教育の4つの能力の育成</p> <p>①人間関係形成・社会形成能力の育成</p> <p>②自己理解・自己管理能力の育成</p> <p>③課題対応能力の育成</p> <p>④キャリアプランニング能力の育成 (「小郡っ子夢実現プロジェクト」各学年目標の達成)</p> <p>II. 生徒リーダーの育成</p> <p>III. ボランティア・奉仕活動の推進</p>	<p>「人とのつながり」「地域とのつながり」を中心とした活動の展開</p> <p>○小郡っ子夢実現プロジェクト</p> <p>○学校行事への積極的な取組 ・体験活動・運動会・文化祭等</p> <p>○生徒会活動の活性化 ・全校集会・中央委員会・専門委員会・部活動リーダー研修会、有志合唱団</p> <p>○黙動清掃の充実</p> <p>○ボランティア活動方針の実施 ・生徒会主催ボランティア、リサイクル ・地域行事への参加 ・開発的ボランティア活動</p> <p>○山口市社協福祉教育推進協力校事業</p>	<p style="text-align: center;">3</p> <p>【3】</p> <p>【3】</p> <p>【3】</p> <p>【3】</p> <p>【2】</p>	<p>○学校行事に関するキャリア教育アンケートによる分析</p> <p>・体験学習(宿泊学習、職場体験学習、修学旅行)、運動会、文化祭の平均点の経年変化による分析(左からH26、H27、H28の順)</p> <p>宿泊学習 3.09→3.08→3.31 大幅に向上しているので「4」</p> <p>職場体験学習 3.31→3.35→3.43 微増だが高水準なので「4」</p> <p>修学旅行 3.21→3.38→3.33 微減なので「2」</p> <p>運動会 3.14→3.12→3.20 微増なので「3」</p> <p>文化祭 3.26→3.25→3.37 微増だが高水準なので「4」</p> <p>$(4 + 4 + 2 + 3 + 4) \div 5 = \underline{\underline{3.40}}$を学校行事の評価とする。</p> <p>○キャリア教育の4つの能力別による分析</p> <p>・学校行事、清掃活動、専門委員会の平均点による分析</p> <p>①人間関係形成・社会形成能力 3.41</p> <p>②自己理解・自己管理能力 3.39</p> <p>③課題対応能力 3.15</p> <p>④キャリアプランニング能力 3.19</p> <p>$(3.41 + 3.39 + 3.15 + 3.19) \div 4 = \underline{\underline{3.28}}$を4つの能力の評価とする。</p> <p>○リーダーアンケートによる分析(4能力の平均点)</p> <p>・運動会(応援団員、実行委員) 3.54</p> <p>・文化祭(生徒会執行部、実行委員、合唱実行委員) 3.43</p> <p>・生徒会執行部(2学期) 3.24</p> <p>$(3.54 + 3.43 + 3.24) \div 3 = \underline{\underline{3.41}}$をリーダーアンケートの評価とする。</p> <p>○ボランティアリストによる分析</p> <p>本年度の1月現在でのボランティアの延べ人数は310人である。昨年度の同時期は574人であったが、世界スカウトジャンボリー関係で115人、SL復活応援で58人と昨年限定行事への参加が多かったため、例年より多い数であった。この数を引いた数で計算すると401人である。この401人を本年度と比較すると、昨年比約77%程度であるので、「2」をボランティアリストの評価とする。</p> <p><総合評価></p> <p>$(3.40 + 3.28 + 3.41 + 2.00) \div 4 = \underline{\underline{3.02}}$</p> <p>総合評価は3.02であるので、四捨五入して、社会とのつながりプランの評価は「<u>3. おおむね達成できている</u>」とする。</p>	<p>○中学生時から、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力の各能力を向上させるべく、先生方が意識して各行事に取り組んでいること自体が大変素晴らしいと思う。</p> <p>○中学生が地域において、ボランティア活動に熱心に取り組んでいることを認識しているが、もっとそのことを外部にアピールしてはどうだろうか。</p> <p>○ボランティア活動を通して地域の方と触れ合うことで、気持ち良く挨拶をする中学生が増えたように思われる。</p> <p>○本プランに基づく取組は、生徒にとって「社会勉強」であり、大人になったときの自身の言動ベースとなってくるものである。多様な体験をし、様々な人との交流、縦・横のつながりを深めることで「いじめ」や「防災」等の社会的問題にも有効であると思われる。故に、今後も積極的にアプローチして欲しい。</p> <p>○ボランティアリストによる分析では「2」になっているが、ボランティア活動に参加したいと思っている生徒は増えていると思われるので、学校としてこのまま継続して欲しい。また、できれば全校生徒で取り組むボランティア活動を取り入れて欲しい。</p> <p>○宿泊学習・職場体験学習において、充実感を得ている生徒が年々増えている。学校を離れた場面でも意欲的に活動することは大変素晴らしい。また、運動会や文化祭等学校行事に充実感を得ている生徒が多い事実から、活動的な生徒に育っていることに喜びを感じている。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>13名中 A: 4 B: 6</p> <p style="text-align: center;">C: 3 D: 0</p> </div>
	B				

保健体育指導	『体づくりプラン』による、生きる力の源となるたくましい体づくりをめざして	①様々な活動場面における健康づくりの実践 ・体育の授業での基礎体力向上と、運動器検診に向けたトレーニングの実施	3 【3】	①について ・体育の授業の中で、毎時間ストレッチ運動を取り入れた。(運動器検診のチェック項目に沿ったもの)運動を継続することによって、生徒が、できる喜びを感じる場面が多くみられるようになった。 ・保健体育委員会の活動として、黙想時に姿勢を正しくする呼びかけを行った。2学期には生徒対象の「姿勢講座」を行い、意識の向上を図った。また、3学期に開催した「学校保健安全委員会」でも、講師を招いて「立腰教育」の講義を行った。講義を受けることによって、姿勢を正しくすることの意味や必要性を理解し、日頃の生活でも意識する生徒が増えてきた。	○体育授業におけるストレッチ運動や保健体育委員会による姿勢を正しくする呼びかけの取組は良いと思う。ノーメディア週間の実施は、昨年度よりも強化されており、さらに効果をあげるためにも保護者との情報共有及び連携が今後も大切である。
	①身体活動・運動を通じた健康づくり ・基礎体力づくりのための取組	・姿勢を意識した授業前黙想の徹底		②について ・中間・期末週間を利用してノーメディア週間を実施した。ノーメディア週間は毎年実施していることもあり、学校全体で、取組の充実や意識の高まりがみられるようになった。 ・給食後の歯磨き週間を実施した。歯磨き週間については、全校で一斉に取り組むことの困難さがあった。	○運動能力には個人差があるが、体の強さ(体力)は意識して向上させることができるものとする。親としても姿勢や規則正しい食習慣の形成に気を配り、体に対する意識づけを高めていきたい。
	②のぞましい生活習慣の定着 ・メディアとの関わりに着目した取組 ・歯磨き習慣徹底への取組	②生活習慣のチェックと改善 ・ノーメディア週間の実施(定期テストごと) ・給食後の歯磨き週間の呼びかけ及び実施		③について ・保健委員会の活動として、生徒への呼びかけや実施後の集計等を行った。また、全校生徒に、今年度の委員会での取組についてのアンケートを行った結果、各活動における生徒の自己評価は、4段階中3程度の平均値となっており、感想からも、活動への取組前後の意識の変容がみられた。	○インドア化している現代社会の中で、計画的に体づくりをしていることは望ましいことである。課題である柔軟性の向上に向けてさらに効果的な取組を期待する。
	③「活用力」の育成 ・委員会活動を通じた、生徒の主体的な活動	③生徒自身による目標設定と実践 ・保健体育委員会での活動内容の確認、実施		④について ・ノーメディア週間実施の文書を配布し、協力を呼びかけた。また、保護者の参加のもと、学校保健安全委員会を実施し、情報共有や課題の確認を行った。委員会活動での取組の結果等についての報告文書を全家庭に配布した。	○保健統計調査から、耳や目に問題のある生徒がやや多いように思える。やはり、パソコンやスマートフォンによる影響が心配される。
④保護者との連携	④保護者への情報提供・協力の呼びかけ	【3】	<p>〈来年度に向けての見通し〉</p> <p>以上の分析より、継続することや生徒への意識づけをすることの重要性がより明確になった。来年度は、生徒自身が実践の成果を実感し、より自発的に活動できるような工夫をしていきたいと考える。</p>	○歯科受診率が前年よりも低下しており、懸念される。食後の歯磨き習慣の徹底と受診率アップが望まれる。	
					○優れた人の話を聞くことも効果はあるが、取えて失敗した人、若くして健康を害した人の話を聞き、反面教師にすることで健康への意識づけ、体をつくることの大切さが理解されるのではないか。
					○中学生時は、大人になるための生活習慣や基礎体力を培う大切な時期であり、保護者との連携のもと、生徒自身が自主的に取り組むよう、意識改善にさらに努める必要があると思う。
					13名中 A: 2 B: 9 C: 2 D: 0

B

業務改善	①公務分掌の組織的機能の充実	①各分掌部会が核となる、重点目標達成に向けた検証・改善サイクルの確実な実践	3	①分掌の組織的機能については、前述した5つのプランの取組状況(評価結果)を踏まえ、総合的には概ね良好であると判断する。	<p>○時間外業務時間の縮減については、困難な課題であることはよく理解できるが、職場内で議論をし、一歩ずつ縮減の方向に向かって欲しい。特に部活の在り方について、校内でどのような議論をされているかを委員としても知りたいと思う。</p> <p>○先生方のストレス解消法などの情報を共有し、実践するなどして今後も良好な職場環境づくりに努めて欲しい。</p> <p>○先生方の負担は多く、大変な状況であることは十分把握しているが、お願いしますとしか言えない。PTAとして可能な限り協力をしていきたい。</p> <p>○委員会等が定期的に開催され、情報交換・共有が適切に図られており、また、生徒指導上の諸問題が発生したときの報告・連絡・相談が徹底されていることは、良好な職場だと言える。</p> <p>○職員間や関係機関等とのネットワーク・連携が大切な時代であり、良く図られていると思われる。反面、各種調査物や催し物、会議等で先生方の負担が大きいことがかなり懸念される。</p> <p>○事務分担の改善等により、時間外業務時間の縮小傾向が見られているが、良好な職場環境は組織的な機能の充実にもつながるものであり、さらに改善に向けて努力して欲しい。</p> <p>○先生方の時間外業務については気になるところであるが、現在の小郡中の落ち着きは、そのような苦境の中で頑張っておられる先生方の指導・支援のお陰であると思う。</p>
	②情報の共有と好ましい職場環境づくり	②問題等発生時における報告・連絡・相談の徹底や委員会等の定期的な開催	【3】	②毎朝の打ち合わせ会(職朝含む)や週一回の生徒指導委員会等の定例会を通して、各学年部内や全校での情報共有が確実に図られている。また、問題等発生時においては、必要に応じて関係職員を招集し、情報共有及び対応協議を適時・的確に実施している。	
	③業務分担及び勤務時間短縮の工夫	③業務分担の適正化と時間外勤務の縮小化	【3】	③職員会議は勤務時間内で実施できるなど会議の効率化が図られている。また、時間外業務時間については、学級・学年業務、教材研究、分掌業務、部活動等業務過多は見られるものの職員一人あたりの月平均は、約73時間であり、昨年に比べてかなり減少している。業務分担の適正化とともに、職員一人ひとりの時間外業務の縮減に関する意識が少しずつ高まってきていることが伺える。	
<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>13名中 A: 4 B: 8</p> <p style="text-align: right;">C: 1 D: 0</p> </div>					

B

